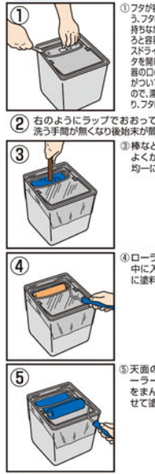
便利なローラートレイ付広口容器（特許第4386785号）の使い方

この容器はローラーバケが直接入り、天面のトレイ部分で塗料をしごくことができる画期的な容器です。下記の使用方法にしたがってご使用下さい。使用するローラーバケはミドルローラーやスリムローラーが適しています。

使用方法

●使用前に容器を振動によく振り、中の塗料を均一にします。（フタが開くおそれがありますので、注意して下さい）



① フタが容器の中に落ちないようフタにつけて、フタの矢印のところと容器の角の間に、マイナスドライバーを差しふんでフタを開けます。フタの裏や容器の口の縁に、半乾きの塗料がついていることがありますので、清らかなウエスで拭き取り、フタは保管しておきます。

② 右のようにラップでおおっておくと、洗う手間が無くなり後始末が簡単です。

③ 棒などで容器の底までよくかき混ぜ、塗料を均一にします。

④ ローラーバケを容器の中に入れローラー部分に塗料をつけます。

⑤ 天面のトレイ部分でローラーを転がし、塗料をまんべんなくなじませて塗装します。

⑥ 塗装終了後は、トレイ部分や容器の口の周囲に付着した塗料をウエスなどで拭き取り、軽くフタをした後、両手親指でフタの両端を強く押してフタを閉めます。
②のようにあらかじめラップをしておくと、ラップを捨てるだけでほとんど汚れずに後始末が簡単です。

容器をラップでおおう方法

②-1 サゲ手はトレイ部の方へ倒した状態で、ラップを容器の天面より大きめにカットし、缶の天面全体をおおいます。（ポリ塩化ビニリデンのラップをお使い下さい）

②-2 ラップを容器の天面にフィットするように軽く押さえ密着させ、余ったラップを缶側に巻きつけます。

②-3 容器の口の部分のラップにカッターナイフなどで切り込みをいれ、ローラーバケが入るようにします。フットしたラップは容器の口の内側へ巻き込みます。

②-4 サゲ手を持って場所を移動する時は、トレイ部のラップを容器の口の方へめくりあげてサゲ手を持って下さい。再度、塗装する時はサゲ手をトレイ部に倒しラップも元に戻して下さい。

使用上の注意

1. 塗装下地に腐敗菌、カビ菌がついている場合があり、その菌が容器内の塗料に混ざり込むと保存中に塗料が腐敗することがあります。早めに塗料を使い切って下さい。
2. 落下によりフタが開いたり、容器が変形することがありますので、容器の取り扱いに注意して下さい。

●この容器は、水を加えてかきまぜたりスポンジ、多少スポンジ、ウエスでふき取ります。但、その容器は注意事項をお読みください。

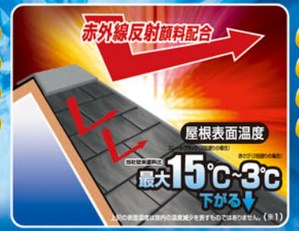
アサヒペン

日射反射率UP!

屋根の表面温度上昇を抑える！

水性 屋根用 遮熱塗料

スレート瓦
各種セメント瓦
コロニアル
カラーベスト



トタン
カラートタン
鋼板の屋根
各種サイディング

（※1）遮熱効果について表記している数値は、弊社の機器にて計測した自社比較試験による数値であり、実際の屋根に計測したものではありません。遮熱効果は塗装場所の天候や環境、塗装条件や色により異なります。

紫外線劣化防止剤（HALS）配合

10L

無鉛塗料 鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積（2回塗り）	乾燥時間	塗り重ねの目安
40~54㎡ タテヨコ 24~32㎡	夏期/30分~1時間 冬期/ 2~3時間	夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

使用方法・注意書きをよく読んでから使用してください。

※下塗りが必要な場合がありますので、裏面の「下地処理の注意」をお読み下さい。

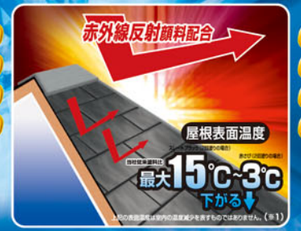
アサヒペン

日射反射率UP!

屋根の表面温度上昇を抑える！

水性 屋根用 遮熱塗料

スレート瓦
各種セメント瓦
コロニアル
カラーベスト



トタン
カラートタン
鋼板の屋根
各種サイディング

（※1）遮熱効果について表記している数値は、弊社の機器にて計測した自社比較試験による数値であり、実際の屋根に計測したものではありません。遮熱効果は塗装場所の天候や環境、塗装条件や色により異なります。

紫外線劣化防止剤（HALS）配合

10L

無鉛塗料 鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積（2回塗り）	乾燥時間	塗り重ねの目安
40~54㎡ タテヨコ 24~32㎡	夏期/30分~1時間 冬期/ 2~3時間	夏期/2時間以上 冬期/6時間以上

使用方法・注意書きをよく読んでから使用してください。

※下塗りが必要な場合がありますので、右面の「下地処理の注意」をお読み下さい。

商品名	水性屋根用遮熱塗料
品名	合成樹脂塗料(水系)
成分	合成樹脂(シリコンアクリル樹脂)、顔料、紫外線劣化防止剤(HALS)、防カビ剤、防腐剤、防錆剤、サビドメ剤、水

特長

- 特殊顔料により従来塗料に比べ太陽光の赤外線を反射し、屋根の表面温度上昇を抑えます。
- シリコンアクリル樹脂、紫外線劣化防止剤(HALS)配合により耐候性が優れています。
- 撥性用、撥性用、排気ガスに対し優れた保護効果を発揮します。
- 防カビ剤、防腐剤、防錆剤配合により、長期間屋根を保護します。

用途

一般住宅、工場、倉庫、鋼材タンク等金属と鉄筋鉄骨などの以下の屋外用途。
- スレート瓦・各種セメント瓦・コロニアル・カラーベストなどの新工瓦、モニエル瓦には適しません。
- トタン・カラートタン・鋼板の屋根。
- コンクリート・モルタル外壁面や各種サイディング。

絶え間ないかかったり水につかるところや、いつも湿っているところには適しません。

塗装方法

1. ●はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを利用して十分に取り除きます。
   ●ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリングなどで補修しておきます。
2. ●塗る面の汚れ・ホコリ・カビなどを取り、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
3. ●塗料がついては困るところは、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
4. ●アサヒペン遮熱塗料専用シーラーを下塗りして下さい。シーラーを下塗りすると、下地の補強効果と遮熱効果(反射率向上)がさらに発揮されます。
5. ●塗料は棒などで容器の底までよくかき混ぜ、均一にします。
6. ●塗料粘度が高すぎてやりにくいときは、水で少しだけ(5%以内)うすめます。夏期、塗装面が高温になり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合は、さらに少しずつ(15%以内)うすめて調整します。
7. ●筋の重なった部分や乾燥が早くて塗りにくいところは、先にすじかいバケで塗ります。
   ●広い面積の部分は、五厚ハケなどの大きいハケで軽先に対して縦に塗ります。(横塗りするとホコリがたまります)また、ローラーバケ、アサヒペンオートローラー、ペイントスプレーなどを使うと、さらに速く、美に塗ることができます。
   ●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水か湯で洗って下さい。

遮熱効果について

- 遮熱効果は塗装場所の天候や環境、被塗物の状態、塗装条件、色などによって異なります。
- 白照時の表面温度をより下げたい場合は、明度の高い色を塗布して下さい。
- 明るい明度の高い色の遮熱塗料は同系の色同士で従来塗料と比較すると、表面温度の低下は自社比較試験では約3℃となり、濃い(明度の低い)色同士での比較に比べて小さくなります。明度の高い色は元々自射反射率が高いので、同じ自照条件では濃い色の遮熱塗料に比べてより表面温度が低くなります。

下地処理の注意

1. つるつるした面や塗る面の粉化(チョーキング)が著しいときは、サンドペーパーで表面を荒らし解かかすを取り除いてから塗って下さい。
2. ひび割れやすきまなどはあらかじめコーキング材・シーリング材・セメントなどで補修しておきます。
3. ●カわれの劣化が著しい場合は、油性シーラーまたはかわら塗料専用シーラーを下塗りして下さい。

取扱い上の注意

1. 表示の用途以外に使用しないで下さい。
2. 目に入ったり、皮膚に付着しないよう、また、誤飲しないよう注意して下さい。
3. 塗料がついても支障がない服装で作業して下さい。
4. 雨の降りそうな日、湿度の高い日、風の強い日は避け、天気の良い日に塗装して下さい。夕方から朝にかけては気温が低くなり、結露する場合があります。塗膜が乾燥途中に結露するとサビ化・白化・ハガレを生じることがありますので、塗り終わり好ましくないように注意して下さい。塗装は天気の良い日を選び15時頃までを目安に行って下さい。
5. 塗装する時及び使った塗料が乾くまでの間も、5℃以下にならないような時期に塗って下さい。
6. 屋根を塗る場合は隣り合う所が離後になるように順序を考えて塗って下さい。また、転落事故がないようテント分注意して作業して下さい。塗料が乾燥するまでは、たいへんすべりやすいので、滑倒のないように注意して下さい。
7. コーキング材・シーリング材には、密閉しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして密着することを確認してから塗って下さい。
8. 塗装を1回分以上中断するときには、ハケやローラーをラップ、アルミホイルなどでつつんで、表面が乾燥しないよう注意して下さい。
9. 瓦の重なり部などで塗料が詰まった場合には、皮スキ、カッターナイフ等で塗料を縁切りして下さい。塗料が詰まると雨漏り発生の原因となる恐れがあります。
10. 塗装面を見るときに角度によってわずかに色が異なることがあります。塗布量が少ないところは、異なる色に見えます。再度重ね塗りをして下さい。
11. 缶の中の塗料の色と塗っている塗料の色とではかなり異なるように見える色もありますが、乾くと見本の色になります。
12. 同じ色でも商品が異なりますと色が異なることがあります。
13. 冬場では夏場と比べて日射量が少ないため従来塗料より乾く感じることはあります。
14. 塗り面積・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
15. 容器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。
16. やむを大文塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。

保管上の注意

1. 幼児の手の届かないところに保存し、子供が誤飲、誤食、いたずらをしないように注意して下さい。
2. 直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温になるところ、容器がさけやすいところには置かないで下さい。
3. 残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切って下さい。

危険	
	●強い眼刺激 ●皮膚の障害 ●水生生物に毒性

救急処置

- ●目に入った場合には、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ●飲って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気、ガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い流こしし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

株式会社 アサヒペン
大阪市鶴見区鶴見4-1-12
お客様相談室 ☎06-6934-0300
日本製 SD-1204